

8月になりました。高温条件下での薬剤散布は薬害の発生や作業者の熱中症リスクが高くなりますので、朝方等比較的気温の低い時間帯の散布を心がけ、休憩や水分・塩分補給をこまめに行ってください。ただし、暑いからといってマスクや手袋、防護服等の保護具を着用しないまま散布することだけは絶対にしないでください。

「果樹全般」

●果樹カメムシ類

この時期の果樹カメムシ類は、山林で餌となるスギ・ヒノキの球果を吸汁しており、吸汁によって球果が劣化し餌として使えなくなると、球果から離脱して果樹園等に飛来します。寄生する成・幼虫数が多ければ球果が早く劣化し、果樹園への飛来時期が早まるおそれがあります。ヒノキの球果からの離脱時期は、農業技術防除センターが県内複数地点を調査した結果を予測値として提供しています。該当ページの QR コードを載せていますので、参考にして下さい。

なお、実際の果樹園への飛来時期・飛来量は地域や園地によって異なるため、園内をこまめに見回り、飛来が確認された場合は、早急に薬剤を散布して下さい。



農業技術防除センター「病虫害発生予察情報（令和8年度）」

「露地カンキツ」

●黒点病

前回散布からの累積降雨量 200～250mm を目安にマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）、またはマンネブ水和剤（エムダイファー水和剤）を散布してください。累積降雨量が 200～250mm に達していない場合であっても、前回の散布から 1 カ月を目安に追加散布を実施してください。また、枯れ枝は見つけ次第除去し、園地外で処分してください。

●褐色腐敗病

土壌中に生息する病原菌が雨滴等によって土壌とともに跳ね上がり、果実に付着して感染・発病します。本病が以前発生した園や排水の悪い園では特に注意し、以下の対策を行って下さい。

① 枝吊り

結果した下垂枝の枝吊りを行い、果実を地表面から離すと跳ね上がりによる土壌の付着が少なくなり、感染・発病を減らすことができます。

② マルチ被覆

マルチ被覆は、雨滴等による土壌の跳ね上がりを遮断する有効な対策です。ただし、マルチが剥がれたりして土壌が露出すると効果が低くなります。日ごろからマルチの点検を行うとともに、台風等の強風雨前にはマルチが剥がれないよう対策して下さい。

③ 伝染源の除去

発病した果実を樹上や園内に放置すると、病原菌が飛散し被害が拡大するため、必ず園外に持ち出して処分して下さい。

④ 薬剤散布

黒点病の防除を兼ねてマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、またはペンコゼブ水和剤）を散布して下さい（※両薬剤とも、温州ミカン は 400～600 倍・収穫 30 日前まで、その他カンキツ類では 600 倍・収穫 90 日前まで）。果実表面にかかりムラがないよう丁寧に散布して下さい。なお、有効成分にマンゼブを含む農薬の使用回数は合わせて 4 回以内となっているため、使用回数を超えないように注意してください。

●かいよう病

台風の襲来等暴風雨が予想される場合には、すでに発生が確認された園だけでなく、本病

にかかりやすい品種（中晩柑類、高糖系温州）や、温州ミカンであっても①昨年本病が発生した園、②風当たりが強い園、③幼木や高接ぎ園では、コサイド 3,000 2,000 倍、クプロシールド 1,000 倍等の銅剤を散布して下さい。なお、成分である銅の薬害（スターメラノーズ）の発生を軽減するため、必ずクレフノン 200 倍を加用してください。台風通過後の散布では効果が劣るため、襲来 7 日前～前日までに散布して下さい。

また、上記のように発生しやすい園では、侵入口となるミカンハモグリガ幼虫の食害痕を出さないよう、新梢伸長期～硬化期のミカンハモグリガの防除も徹底して下さい。

●チャノキイロアザミウマ

後期被害を防止する重要な時期です。アドマイヤーフロアブル 2,000 倍、コルト顆粒水和剤 3,000 倍、ダントツ水溶剤 2,000 倍、モスピラン SL 液剤 2,000 倍等を散布してください。周辺にイヌマキやサンゴジュ、チャ等の寄主植物が植栽されている園地は被害を受けやすいため、散布後 2 週間をめどに追加防除を行ってください。

●カイガラムシ類

昨年、8 月下旬～9 月上旬にかけてナシマルカイガラムシ第 3 世代と思われる虫が急増し、収穫時に果実被害を生じた園が散見されました。本虫第 3 世代の発生時期は 8 月～11 月と長期に渡り、放置しておくと被害が拡大していきます。昨年果実被害が生じた園地や、周囲に管理不足の園地がある場合は、トランスフォームフロアブル 2,000 倍やエルサン乳剤 1,000 倍、ダントツ水溶剤 2,000 倍等を散布してください。なお、上記の園以外でも果実への寄生（写真 1）が確認された場合は、他の果実への寄生を防止するために早急にトランスフォームフロアブル 2,000 倍（発生が多い場合は 1,000 倍）等で防除してください。



写真1 ナシマルカイガラムシに寄生された露地みかん（2025. 9. 1 佐賀市）

●ミカンハダニ・ミカンサビダニ

着色期以降に果実がミカンハダニに加害されると、果実の外観品質を著しく低下させます。発生初期（寄生葉率 30%未満、または1葉あたりの雌成虫が0.5～1頭）にコロマイト水和剤 2,000 倍やダニコングフロアブル 2,000 倍、ダニオーテフロアブル 2,000 倍等を散布してください。ただし、ダニオーテフロアブルは銅剤との近接散布を行うと効果が低下するため、かいよう病防除等で銅剤を散布した園では使用しないでください。また、昨年ミカンサビダニによる果実被害が生じた園地や、周囲に管理不足の園地がある場合は、ミカンサビダニと同時防除可能なダニゲッターフロアブル 2,000 倍等を散布してください。

●ゴマダラカミキリ

8月以降は幼虫の食入時期になります。定期的に園地を見回り、幼虫による被害が確認された場合は、針金等を食入痕に挿し入れて捕殺してください。捕殺に用いる針金は、針金ハンガーのような丈夫なものを使用してください。捕殺が難しい場合は、園芸用キンチョール E やロビンフッドを使用して下さい。被害の有無は株元に落ちている木くずの有無で確認できます。

「施設不知火」

●汚れ果症

施設栽培の‘不知火’では、赤道面から果頂部を中心に黒点症状を生じる「汚れ果症」が問題となります。本症は高湿度条件で発生が多くなるため、換気などの湿度対策を十分に行って下さい。薬剤はマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤） 600 倍を露地栽培の黒点病防除と同様に、前回散布から累積降雨量 250mm または散布後 1 カ月を目安に散布すると効果的です。

「ナシ」

●黒星病、炭そ病

‘幸水’植栽園では、収穫時の果実の薬液汚れや収穫前日数に留意して、アミスター10フロアブル 1,000 倍やストロビードライフロアブル 3,000 倍（炭そ病対象の場合 2,000 倍）を散布して下さい。

‘幸水’が植栽されていない園では、チオノックフロアブル 500 倍（収穫 30 日前まで）、オキシラン水和剤 500 倍（収穫 21 日前まで）、オーソサイド水和剤 80～800 倍（収穫 3 日前まで）等を散布しますが、収穫 14 日前～収穫前日の間は果実の汚れに配慮してアミスター 10 フロアブル 1,000 倍等を散布して下さい。

●果実吸蛾類（夜蛾類）

今年も 8 月の気温は高いと予想されており、気温（特に夜温）が高いと活動が活発になる果実吸蛾類（夜蛾類）による被害が多くなるおそれがあります。対策として忌避灯を設置されている園地では、点灯時間を必ず確認し、日没直前から日の出までの間、園全体がくまなく照らされているかをしっかり確認してください。その他、詳しい対策は 6 月号に掲載されている特集記事をご参考ください。

●ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類

収穫終了まで 7～10 日間隔（コンフューザーN 等の交信かく乱剤を設置している場合は 14 日間隔）で殺虫剤を散布して下さい。テルスター水和剤 1,000 倍（収穫前日まで、‘幸水’は汚れに注意）、アグロスリン水和剤 1,000～2,000 倍（収穫前日まで、‘幸水’は汚れに注意）等の合成ピレスロイド剤を散布して下さい。アルバリン（スタークル）顆粒水溶剤（収穫前日まで）やモスピラン水溶剤（収穫前日まで）などのネオニコチノイド系剤は、ナシヒメシンクイには高い効果がありますが、ハマキムシ類には効果が劣るので園地内の発生状況に応じて選択してください。

●ハダニ類

ハダニ類が発生している園では、コロマイト水和剤 2,000 倍、カネマイトフロアブル 1,000 倍等を散布して下さい。ハダニ類には、発生初期の低密度時の薬剤散布が最も効果的です。収穫後もこまめに園内の発生状況を観察し、発生が認められたら早急に薬剤を散布して下さい。

●フタモンマダラメイガ

8～9 月にフェニックスフロアブル 4,000 倍を主幹、主枝に対して十分量を散布します。スピードスプレーヤーでの散布は主幹・主枝への薬液の付着が劣るため、できる限り手散布で対応して下さい。

「ブドウ」

●べと病

発病後は薬剤の効果が劣るため、発生前からの薬剤散布が重要です。ボルドー液（I C ボルドー48Q、66D）50 倍に展着剤のアビオンE 1,000 倍を加用して散布し、散布間隔は20 日間以上空けないようにして下さい。

「モモ」

●コスカシバ

8 月上旬～9 月上旬頃は、コスカシバの若齢幼虫の幹への侵入が多い時期です。ガットサイドS 1.5 倍を葉に付着しないよう注意して樹幹部および主枝に塗布して下さい。

「カキ」

●炭そ病

果実は、8 月中～下旬頃から炭そ病に感染しやすくなります。マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）500 倍やマンネブ水和剤（エムダイファー水和剤）500 倍を散布して果実への感染を防いで下さい。散布後は累積降雨量 150～200mm または 20 日経過を目安に再散布して下さい。なお、両剤の成分であるマンゼブおよびマンネブの使用回数はそれぞれ2 回までです。もし、使用回数に達した時はストロビードライフロアブル 3,000 倍等を散布して下さい。ストロビードライフロアブルは、累積降雨量 100～150mm が再散布の目安です。

なお、軟弱徒長した夏枝は炭そ病に罹病しやすく、果実への伝染源となるため不要な徒長枝は必ず剪除して下さい。

●うどんこ病

本病が多発すると早期落葉の原因になります。ストロビードライフロアブル 3,000 倍（収穫 14 日前まで）やトリフミン水和剤 2,000 倍（収穫前日まで）等を散布して下さい。